

CHODR

## 育ち合う場研究センター

Center for Human and Organizational Development Resource

### I. 活動案内

#### 1. 育ち合う場の提供

##### 1. 個人・家族・小グループのカウンセリング

###### 1) 人生カウンセリング

こんな方々にお勧めします。閉じこもり、摂食障害、病気でもないけれど体調が悪い、孤独感を感じる、うつ、気分が塞ぐ、家族の中がぎくしゃくとしているなど具体的に問題を抱えておられる方。また、そもそも何が問題かわからなくてとにかく混乱している方。さらに、とにかく疲れていてホッとしたいという方などです。

基本単位は一週間に一回一時間で、カウンセラー（世話人）の醸し出す心理的に安全な雰囲気の中で自由に過ごします。この中でまずはくつろいでいただくことが大事です。そして、思いや気持ちを表現し、カウンセラーに聴いてもらいます。絡んだ糸がほどけるようになって楽になってきます。力も湧いてきます。そして、自分自身を振り返り、動くべき道を見いだしていくのです。これは不思議ですが自ずと見えてきます。本来自分の中にはそういう力があるのにそれが覆われているのです。

人生いろんなことがあります。ほとんどが荷物を背負って歩く坂道みたいなもの。1人で担ぐより2人で担ぐ方が良い。2人より3人がいい・・・・支え合って共に歩んで行きたいものです。

###### 2) 不登校、摂食障害、発達障害等成長過程の問題解決のための家族カウンセリング

子育ては簡単といえば簡単ですが、時にやっかいで難しいものです。特に、不登校、多動、自閉傾向、摂食障害等問題を抱えた時にはどうしようかと狼狽してしまうものです。しかし、あきらめる必要はありません。適切に対処すればこれらの問題はよくなります。

当センターでは、独自の取り組みをしています。人間の生理的・心理的・社会的各側面を全体性に扱い、しかも、家族を一つの単位として取り組んでいきます。中でも不登校の問題に対して実績があります。

すぐに本人が来られない場合が多いです。その時には家族のどなたでも結構です。まずはお越し下さい。そこからスタートしていきます。

1週間に1回1時間のペースで継続できます。**確実な効果を上げるために、特に最初の4回は週1で連続して来て下さることを切にお願いいたします。**（詳しくはp.4- p.5をご覧ください。）

本を紹介します。是非ご一読下さい。

黒川昭登『不登校へのメッセージ—学校に行けないのには理由がある』朱鷺書房

黒川昭登『母とともに治す登校拒否—母子分離不安の治療研究』誠信書房

黒川昭登『子どもの心の声を聴く—傷つく心』朱鷺書房

黒川昭登『閉じこもりの原因と治療—登校拒否から出社拒否へ』誠信書房

## 2. 「育ち合う人間関係」を体験する集い

### 1) ワイガヤ・リトリートグループ

世話人の提供する「育ち合う人間関係」の中で自由に語り合い、聞き合う場です。同時に、仲間と共に一息ついてリラックスし、自分を振り返る場です。慌ただしく、ストレスいっぱいの日常生活。そんな中で自分を取り戻すひとときです。月1回2時間です。

### 2) ワンデイ

時間が1日になります。より集中して「育ち合う人間関係」を体験出来ます。

### 3) 宿泊

さらに、宿泊形式で行います。自然の豊かな場で生活を共にしながら過ごします。夜は食事を共にいただきくつろいで過ごしたいと思います。お風呂につかってリラックスもしましょう。そして、世話人の提供する「育ち合う人間関係」の中で自由に語り合い、聞き合う場を体験します。慌ただしく、ストレスいっぱいの日常生活。そんな中で自分を取り戻すひとときになることを願っています。

## 3. 研修活動

### 1) 面接研修コース

3人一組で行うエンバシー・ラボという練習方法を使って傾聴練習を中心に体験学習します。もちろん、クライアント役も体験しますから自分に気づき、表現する体験学習にもなります。要請があり次第行います(オンデマンド)。

### 2) 援助専門職のための「育ち合う人間関係」を学ぶ集い

教員、ソーシャルワーカー、ケアワーカー、保育士、看護師、栄養士、医師、心理カウンセラーなどの援助専門職の方に「育ち合う人間関係を体験して」頂く場です。職場内研修、月1回×12回、1週間に1回×6回を2クール、宿泊といった形が考えられます。これもオンデマンドで行います。

## 2. 研究活動

### 1. D-pca研究会

当センターの基本理論になっている「仏法を基底にした人間中心のアプローチ(D-pca)」について研究する場です。発表形式、輪読会形式等形が考えられます。どちらにしろ一方的な講義ではなく、ヤリトリを中心とした場です。

### 2. 輪読会など

Rogers の基本文献、仏教についての基本文献を読んだりすることを計画しています。これもグループでヤリトリを中心に行っていきます。

## 3. 国際交流

国際版「育ち合う人間関係を体験する集い」、1年に1回か2年に1回。今までの活動から得られた人の縁を活かし、広く国や地域を越えて集まり、「育ち合う人間関係」を体験する集いです。肌と肌とがふれあう体験といいたしよつか、言葉、文化、習慣、肌の色を超えた楽しく深い交流が出来たらと願っています。

## 4. 世話人プロフィール

### 山下和夫

1952年生まれ。龍谷大学文学部社会学科社会福祉学専攻卒業。老人ホーム生活指導員、自動車セールス、児童養護施設指導員として勤めながら、西光義敏先生とのご縁から C.R.Rogers の来談者中心療法/パーソンセンタード・アプローチを中心に学び、実践を重ねてきた。Los Angeles にある Alternative School "Play Mountain Place" にインターン研修生として滞在。学習者中心の教育と親支援のあり方を学ぶ。その後、龍谷大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻修了。黒川昭登先生から臨床ケースワークについて学ぶ。社会福祉学修士。同大学学生相談室カウンセラー、滋賀県心の教育相談センターカウンセラー、関西保育福祉専門学校、美作女子大学短期大学部講師、関西福祉大学助教授を経て、現在、育ち合う場研究センター 主宰。美作大学生活科学部特任准教授。佛教大学通信教育課程講師。CSP: Center for Studies of the Person (La Jolla, California) 研究員。



## 不登校カウンセリング

当センターが行っている「成長過程で起きる問題解決のための家族カウンセリング」の一端について不登校の問題を例に挙げて紹介してみたいと思います。

まず、そもそもなぜ学校に行けないのか。明確な事実があるのに見落としていることがあります。それは、本人は学校に行きたいし、行かねばならないと思っているのですが、体がうまく動かないという事実です。朝になると頭痛がしたり、腹痛がしたり、下痢をしたり、体調が悪くなることはあるはずで。これを身体症状と呼んでいます。大変苦しいです。しかも、自分ではどうにもならないのです。そして、大事なことは最初のうちはこれを言っているのですが次第にそれを表現しなくなるということです。受け取る側がそのしんどさに無関心で「そんなぐらいで」と不登校の口実として使っているからです。過去に体調不良を言ったことがないか一度振り返っていただくと良いと思います。

このような身体症状は、お医者さんに診ていただくと特に所見が出ないことがほとんどです。でも、実際に痛いのです。実は、これは感じたり表現できない「気持ち」の身体化なのです。心と体は密接につながっています。気持ちはそれを表出しなくて体に表れます。これを「心身反応」と呼びます。不登校の子ども達はこれが習い性になっています。では、その原因は何か？それは家族関係、つまり、親子関係のあり方が大きく関係しているのです。心と体とその子をとりまく親子関係とが精密機械のこどく絡み合って動いているのです。「親に気持ちを何でも表現できるか」。ここが重要になります。

つまり、この状態を良くするには親子関係＝家族を一つの単位として取り組む必要があります。これを「生理・心理・社会」という一つの言葉で表しています。

私達の経験からあるいは理論からこれらの問題は親子関係の中でも乳児期の母親（「重要な人」）への絶対依存がうまくいかなかったことが基本要因になっていることがわかってきています。乳児は授乳や衣服、排泄の世話をしないと大きくなれないのは自明のことですが、これと同時に、絶対依存、情的交流、甘えの充足そしてスキンシップといった基本的欲求が満たされて初めてその内部に土台となる信頼感を育てていきます。これがうまくいかないといつまでも母から離れていくことが出来ないのです。ここを大事にし、その回復を援助していきます。（次ページに続く）

## 不登校カウンセリング（続き）

お母さんであること。これは大きな喜びでもあります。同時に悩みでもあります。ただ、単純にかわいがるだけでいいのですが、頭でわかっていることと実際に行くこととは別です。特に、お母さん自身、今も昔も内部に悩みやしんどさや孤独を抱えているとこれはうまく行きません。聞いてもらうことによって、それらを発散し、ホッとすることが何が何でも必要かと思えます。と同時に、問題の要因と道筋を助言いたします。このようにお母さんへの支援を最重点におきます。

そして、同時に子どもさん本人への関わりも行っていきます。特に、中学生、高校生年齢になっていると本人への支援が必要になってきます。じっくりと気持ちを聴き、またどうしてそれが起きるのかメカニズムと一緒に考えながら理解してもらいます。

さらに、家族、特にお父さんにも会って、気持ちをじっくり聴いて語ってもらうと同時に同じ目標を定められるように話し合っていきます。お父さんも大変です。必要に応じて他の家族メンバーと会うことも行います。このようにして母子関係を支えていきます。

すぐに本人が来れない場合が多いです。その時にはご両親だけでいいです。まずはお越し下さい。そこからスタートして行くのです。

これにはある一定の期間連続して面接に来ていただく必要があります。特に、最初の1週間に1回2時間×4回は、きわめて重要です。ここを徹底しないがために長引くことがよくあります。逆にここを徹底すれば期間がうんと短くなるということにもなります。



## II. 育ち合う場研究センターとは何か

### 1. センターの目的、目標、ミッション

個人・家族を中心に様々な場を「育ち合う場」にしていくための資源を提供するセンターです。個人・家族、小グループを対象にした「育ち合う場」の提供、「育ち合う人間関係」を高めるための研修の場を提供していきます。

ところで、ここで言う「育ち合う場」についてです。これはあじさいの花に喩えることが出来ます。あじさいの花はいくつかの美しい小さな花が集まってひとつの大輪の花を咲かせています。小さい花は各々独自の美しさを持っています。同時に、大輪の花もそれ自身の美しさを持っています。とても美しいハーモニーです。小さい花は個人で、大輪の花は「場」に喩えられます。個人が個性のままに生かされ「場」としても大きな調和を保っている。このような場を「育ち合う場」と呼ぶことにしました。我々の目標はここにあります。

### 2. 活動の三本柱

#### 1. 育ち合う場の提供（カウンセリング）

個人、家族、小グループを対象にした「育ち合う場」の提供、場作りの為に必要な心理的風土を学習する場の提供をします。ここでいう「育ち合う場」は、カウンセリングやエンカウンターグループに近いものですがそれらとはまた一味違ったものをめざしています。いずれも体験的な学びやの交流の場です。

#### 2. 研究活動

「育ち合う場」のあり方について探求します。特に、「育ち合う人間関係」が核になります。個が埋もれていく現代社会。あらためて人間が圧殺されない場のあり方が問われています。個人中心でもなく、集団中心でもない、それらが相互に育み合う場のあり方について研究していきます。

#### 3. 国際交流

交通手段の発達のもとより情報技術の発達により地球が村のようになっていく時代です。育ち合う場研究センターにはパーソンセンタード・アプローチを中心に国際的な人のつながりがあります。

### 3. 基本アプローチ

様々なアプローチにオープンでありたいと思っていますが、ここでは「人間中心のアプローチ(PCA)」、「心理・社会療法(ソーシャル・ワーク)」、そして仏法(仏教)との交流から生まれるつつある「仏法を基底にした人間中心のアプローチ(D-pca)」を基本アプローチとしています。「心とからだ」、「人と環境(社会関係)とその相互作用」、「自由」というような言葉で表される「人間の全体性」に焦点を当て、さらに、「転迷開悟」、「抜苦与楽」という根源的な自分自身への目ざめをも扱える広く深いアプローチであります。

### 育ち合う場の提供

- ・家族、小グループのカウンセリング
- \* 人生カウンセリング
- \* 不登校、摂食障害、発達障害等成長過程の問題解決のためのカウンセリング
- ・「育ち合う人間関係」を体験する集い
- \* ワイガヤ・リトリートグループ
- \* ワンデイ(1日)
- \* 宿泊
- ・研修活動
- \* 面接研修コース
- \* 援助専門職のための「育ち合う人間関係」を学ぶ集い

仏法を基底にしたパーソン・センタード・アプローチ D-pca

### 研究活動

- ・ D-pca : 研究会
- ・ 輪読会

### 国際交流

- ・ CSP: Center for Studies of the Person (La Jolla, California) 共催。
- ・ 海外の PCA との交流
- ADPCA: The Association for the Development of the Person Centered Approach
- PMP: Play Mountain Place (Los Angeles にある Humanistic Alternative School)

CHODR は国際的なコミュニティを作りたいと思っています。

## III. 連絡先

### 育ち合う場研究センター

主宰：山下和夫

〒678-0056 兵庫県相市市那波東本町6-7

電話・FAX：0791-22-5386 携帯：090-5654-9681

e-mail: <kazu@chodr.ptu.jp>

web サイト: <http://chodr.ptu.jp/>